メディアセンターの主な出来事（平成23年度）

メディアセンター本部

1. 電子学術書利用実験プロジェクトの終了と大学図書館共同実証実験の開始

2010年度から実施していた電子学術書利用実験プロジェクトが2012年3月で終了した。電子書籍に関する技術面の評価のほか，延べ126名の塾生が実験モニターとして参加する利用実験を3回に渡って実施することができた。利用実験の成果は今後の電子書籍サービスを考える上での貴重なデータとなる。現在，プロジェクトの次の段階として他大学図書館に「電子学術書共同実証実験」への参加を呼び掛けており，2012年9月の実験開始に向けて準備を進めている。

2. 図書館システムの運用の安定化とKOSMOSの改善

(1) 2010年4月に新たに導入した図書館システムは，導入後2年間を経て安定的に運用できている。開始当初から好評であったMy Libraryサービスはその後も活発に利用されており，利便性向上の点で大きな成果となっている。

(2) 昨年度の東日本大震災の影響で実施スケジュールを繰り延べた，検索システムKOSMOSの基盤ソフトウェアPrimoのバージョンアップ（バージョン3へのアップデート）を2月27日に実施した。このバージョンアップに合わせて，新たな機能として，論文検索（CiNii Articleの検索），目次検索（2000年以降出版の日本語図書の一部），タイトルの前方一致検索が追加されたほか，グーグル・ブックス・ライブラリー・プロジェクトで電子化した著作権保護期間が満了した蔵書（和書約10万冊）のグーグルサイト上のデータへのリンクも実装し，検索結果から全文データを辿れるようになった。

(3) 東日本大震災の際，日吉地区の計画停電による影響を避けるため，震災直後に図書館システム基幹サーバの一部を日吉図書館内の施設から三田メディアセンター内に移設した。その後，三田キャンパス南校舎地下にサーバスペースを確保でき，12月25日に日吉から残りのサーバをこのスペースに移設した。これにより基幹サーバ群を一ヶ所で安定的に管理する体制が実現した。

3. 電子ジャーナル問題への対応策等の検討

平成22年度より設置されたe政策委員会を中心に電子資源に関わる問題に対応した。特に，平成23年度は，大手版元との電子ジャーナル契約が3年契約の満期を迎えたため，契約更新に際して新たな購読モデル等の可能性も含めた検討を行った。

また，国公私立大学図書館協力委員会の委員長校として（2011年8月まで），国立情報学研究所と大学図書館との連携によるコンソーシアム機能の強化に積極的に関与した。

4. 蔵書目録遡及事業の継続

蔵書検索における網羅性向上のために，目録が未入力である三田メディアセンター資料群の遡及入力を前年度に引き続き実施した。また，多言語対応の新図書館システムの稼動を受け，中国語，韓国語，アラビア語などの多言語目録データの処理体制整備を検討した。

5.「中期計画2011-2015」の策定と展開

平成22年度で区切りを迎えた「メディアセンター中期計画2006-2010」の評価を行い，「メディアセンター中期計画2011-2015」の成案化に向けて検討を進めた。

三田メディアセンター

1. 展示室の設置

1階に展示室を新設し，10月3日から展示を開始した。広さは約55m^{2}で，約13m^{2}の倉庫が隣接している。照明はすべてLED，窓には紫外線避けフィルムを貼り，二重カーテンも設備した。これを機に展示会の開催を定期（毎月）に変更すると同時に，展示観覧目的の一般入館を認めることとした。

なおこの開室に伴い，従来の展示ケースはOPAC（KOSMOS）台に転用。メインカウンター前のKOSMOS端末を移動した。

2.『慶應義塾図書館史稿―1970-2012』刊行

平成24（2012）年に旧館開館100年を迎えることを機に，昭和47（1972）年に刊行された『慶應義塾図書館史』（伊東弥之助著）の続編を企画・編纂し，3月に刊行した。（1300部作成し，平成24年4月28日に開催した開館100年記念式典参加者に配布した。）

3. 書庫狭隘化対策のための資料再配置

東日本大震災時に，書架に収まりきらず，やむを得ず天板に配架していた資料が落下したことを契機

として資料再配置を実施した。①電子媒体で代用できる雑誌の箱詰め，②レファレンスブックの見直し縮小（1階に集約），③レファレンスブックの一部を白楽保存書庫へ移送，④図書館図書・雑誌の再配置等。このために白楽への運搬費を調整予算で支出したほか，書庫移動要員2名を短期雇用した。

他方で，役割を終えたアメリカ講座・カナダ講座の図書4,500冊，学会誌バックナンバー重複分等約10,000冊を除籍処分した。

4. 中国語図書の目録遡及

中国語図書のうちKOSMOSに目録データが入力されていないものを対象に，その作成入力（9,683件）を行った。実施に際しては間接経費を取得し，本部と連携の上，データ作成は業務委託によって行った。

三田メディアセンター所蔵資料でデータ未入力の中国語資料は約7万冊あるため，次年度以後もこの目録遡及が継続できるよう，間接経費の取得に尽力する予定。

5. 慶應義塾関係資料の保存対策

慶應関係紀要全46誌を対象としたデジタル化計画を（平成23年度から）スタートした。初年度は，このうち19誌を対象としてデジタル化を実施した。

また「三田評論」98冊について，長期保存のために脱酸処理を施した。

6. 寄贈資料の受入（主なもの）

・中央三井信託銀行より社史コレクション　約500冊

・千代田区立千代田図書館より美作太郎氏旧蔵書326冊（出版史関係洋書）

日吉メディアセンター

1. 学生への図書館プロモーションと読書推奨

新入生および通信教育部夏期スクーリング生に対して，クイズを解きながら各自で館内を回るセルフ・オリエンテーリングを新たに実施し，図書館への興味を喚起するとともに，「おススメ本」の展示，学生による「選書ツアー」，生協との共催による「読書マラソンコメント大賞」等の企画を通して読書推奨を図った。その結果，日吉図書館所蔵資料の年間貸出冊数は全体で前年度比17.4%増となり，カウンターでの通常貸出に絞っても7.4%増と着実な伸びを示した。

2. 学習相談の進展

通常の相談業務のほか，学習相談員企画による展示「ノートの取り方」，「レポート作法」を開催した。またTwitterでの広報も開始した。東日本大震災のための学事日程の変更等によりレポートの課題が増えた影響もあり，相談件数も前年度比約7割増加した。

3. わかり易さを求めた館内配置等の変更

文献目録コーナーを廃止し，一般レファレンスコレクションに組み込むと共に，3階の統計・年鑑類を1階へ一元化する等，利用者に判り易い配置を実現することに着手した。また新着雑誌の配架順序変更や新着棚からバックナンバーへの誘導サインの新設を行った。

4. キャンパス内の研究環境整備への貢献

キャンパスからの強い要請を受けて，来往舎レファレンスライブラリーの一部を譲渡し，そのスペースが研究個室に改修された。書庫スペースは従来のまま確保し収蔵可能冊数の変化はないが，閲覧席は16席減じた。

5. 書庫狭隘化への対策

図書館一般図書の320・360番台につき，過去10年間貸出が無く他地区所蔵のものを除籍すると同時に，研究室と重複する新書・文庫の除籍も行った。また慶應紀要の所蔵一本化も行った。

6. 電子学術書利用実験

日吉キャンパスと矢上キャンパスで，延べ74人の学生モニターを募集して，第2期・第3期の利用実験を実施した。閲覧ソフトの機能追加を行うと共に，蔵書検索システムとの連携を図った。実験終了後にアンケートとグループインタビューを実施して学生の立場での評価を求めた。

7. 施設の刷新・環境整備

1）3階グループ学習室に閲覧席を20席増設。

2）1階ラウンジ，3階雑誌室（一部）のハイチェアの交換。

3）1階パブリックスペース（ラウンジ，AVコーナー除く），カウンター周辺，2階のバルコニーのカーペットの張り替え。

4）1階（レファレンス・コーナー除く），2階，3階の壁面の塗り替え。

5）1階，2階洗面所改修。

6）4階キュービクル壁面改修。

7）防犯カメラ13台の増設。

信濃町メディアセンター

1. 利用者ニーズに応えた施設の改修

（1）前年度に地下改修工事を実施して設置した，グループ学習室の運用を開始した（4/1）。

（2）遺贈による寄附金を使って1階新着雑誌書架

周辺を改修し，表紙の見える書架，快適なソファー，ストール，アームテーブル付き椅子等を配置した「くつろぎ閲覧エリア」を開設した（2/15）。

（3）地下の信濃町ITC事務室跡地に，セミナー室（利用者用パソコン18台設置）を新設するとともに，グループ学習室を従来より奥に移設，改装する工事を実施した（3/2～31）。

2. 利用者教育の再編

医学部新カリキュラムへの移行に伴い，従来実施・協力していた自主選択科目が2011年度で終了し，新たに医学部4年「診断学実習」で「医学文献情報・臨床編」の授業を実施した（2/13，22）。

また，今後の計画のために，卒業生も含め「追跡アンケート」を履修者計328名を対象に実施した。

3. 資料の再配置

山中資料センター，白楽サテライトライブラリー，信濃町メディアセンター間の資料移動と再配置を実施し，今後使用可能な書架スペースを拡張した。

（1）信濃町の2年分（1989～1990）の雑誌バックナンバーを山中資料センターへ移動し，山中資料センターのレファレンス単行書を信濃町へ戻した（8/1～3）。

（2）白楽サテライトライブラリーの大鳥文庫約1,000冊を山中資料センターへ移動（8/4）し，全地区への貸出を可能とした。この結果，白楽サテライトライブラリー所在の信濃町のコレクションは，古医書を中心とする貴重書のみとなった。

（3）山中資料センター内の資料移動（11/18）及び信濃町メディアセンター内の館内資料移動（12/19～29）を実施した。

4. 関係部署へのサービスの変更

Keio Journal of Medicineの索引作業は編集方針の変更のため終了となった。三四会「慶應義塾医学部新聞」の「今月のサイエンス」で紹介する義塾関係者の文献リストの送付を開始した（2/9）。

理工学メディアセンター

1.「未来先導基金」プロジェクトS-Circleの活動

慶應義塾創立150年記念未来先導基金2011年度採択プログラムとして，学生スタッフで構成されるS-Circleが，2010年度に引き続き，図書館の中でコミュニケーションの場を作る活動を行った。創想館に業務を行うためのスペースを確保し，9学科20名の学生スタッフが，相談業務や企画業務を行ったほか，図書館ツアーやオリエンテーションなど，様々な場面で活躍した。相談件数は，前年度より1.5倍以上増加し，中でも勉学に関する相談が目立った。

2. 蔵書構築

（1）古くなった視聴覚資料を除籍し，PCで視聴できるDVDを中心にコレクションを増強した。

（2）Reaxys，Springer Materials，SPIEを新規契約したほか，Powder Diffraction FileをCD-ROM版に変更した。

3. 学術情報発信システム（機関リポジトリ）の運用

（1）公開の許諾が取れた修士論文について，PDFデータのみをITC本部の協力により授業支援システムを用いて収集し，Σ Starに搭載した。

（2）理工学部75年史編纂の事務局として，これまでに出版された理工学部年史のデジタル化をメディアセンター本部の協力により行い，Σ Starに搭載した。

湘南藤沢メディアセンター

1. 湘南藤沢メディアセンターのビジョン，中期計画の策定

湘南藤沢メディアセンターとしてのコンセプト（“見つける，考える，生み出す”を支援する）および中期計画2011～2015を策定した。SFCアゴラでも報告した。

2. Webを使った情報発信

前年に開始したtwitterに続き，7月からfacebookによる情報発信を試行，11月からは本格運用とした。秋学期にはAVコンサルタントによるUstream番組配信で，施設や機材の紹介を行った。

3. 新しいサービスの試行

ライティングコンサルタント制度の試行を開始した。これは大学院後期博士課程生とオーバードクター計3名をコンサルタントとし，メディアセンター2階イベントスペースで学部生に対する論文作成のアドバイスをするものである。

秋学期にメディアセンター・フレンズ活動を行った。学生の視点からメディアセンターの問題点を発見し，その解決策を提案してもらうもので，学部学生3名を採用しメディアセンター2階のマルチメディア・マルチリンガル・スペース（MMLS）を使った留学生とのコミュニケーション企画の立案を課題とした。12月および1月に成果発表を行い，その状況はUstreamでも配信した。また，館外に質問

受付カウンターを設置し青空レファレンスを実施した。

4. 各種調査の実施

今後のサービス展開の参考とするため，秋学期に大学院生を対象としたメールによるアンケート調査を実施し，60 名から回答があった。

蔵書構築基準の見直しのため，全教員を対象としたメールによるアンケート調査を実施し，46 名から回答があった。

学術図書館研究委員会の「学術情報の利用に関する調査 2011」に協力し，キャンパス構成員（専任教員，大学院後期博士課程生）宛に本調査への協力依頼をメールで送信した。回答件数は 27 件（日本語 25 件 , 英語 2 件）だった。

5. マルチメディア環境の充実

管財担当と協力し，3 月に一般教室 4 室，特別教室 4 室，看護医療学部教室 8 室の AV 機器設備の更新を実施した。

ビデオカメラに新機種（SONY NXCAM カムコーダー HXR-NX70J）を導入し，9 月から貸出サービスを開始した。

キャンパスの会議体としてのアーカイブタスクフォースの解散を受け，アーカイブ化事業・システム運用/保守がメディアセンターの業務となった。

薬学メディアセンター

1. 試験期の開館時間延長・臨時開館

定期試験期間の 1 週間前からの平日の閉館時間を 1 時間延長（21：00 閉館），試験期間の土曜日の開館時間を 4 時間延長（17：00 閉館），日・祝日の臨時開館（9：00～17：00）を実施した。また，試験終了後から夏季休業開始までの短縮開館を止め，通常開館期間とした。

2. 学習環境の整備

席取り対策として 30 分以上離席した場合は荷物を回収する「30 分ルール」の運用を開始した。

グループ学習室を複数のグループが同時に使えるように机の配置を変更し，利用実績を上げた。

DVD の館内利用のため PC エリアの PC に DVD 再生ソフトをインストールした。

雑誌の電子化にともない新着学術雑誌コーナーを縮小し，効果的に転用するための館内レイアウト変更案を策定した。立案にあたっては協議会での審議とともに利用者アンケートを実施した。工事は平成 24（2012）年度に実施する。

利用の便および防犯を目的として，一部の資料やサービス用品の配置変更を行った。

3. 情報発信

新着図書を Web で紹介する「ブクログ」サービスを開始した。（http://booklog.jp/users/keioyaku）

Web サイト「お知らせ」の見出し一覧の表示を開始した。

4. 図書コレクション

書庫狭隘化対策として教員アンケートおよび協議会での検討を経て選定した二次資料・和雑誌 63 誌約 2,000 冊の除籍を決定，作業を開始した。また図書の重複基準を策定した。

館内レイアウト変更工事に含まれる参考図書書架縮小に向けた利用度調査を開始した。

利用促進を目指して，活用が見込まれる VTR 資料を DVD に買い替えた。

5. 震災関連

- 4 月「地震・津波・原発を知ろう」展示
- 被災地域の大学所属者への利用開放，高校への除籍図書提供などの支援活動に参加した。
- 節電対策として天井照明の間引き，冷・暖房（22℃）温度制限設定，PC の利用制限，グループ学習室の一次閉鎖等を行った。
- 地震による落下防止策として図書を書架棚板の奥に揃えて配架することとし，文庫・新書棚には背当ての設置により背タイトルと請求記号ラベルがみえにくくならないようにした。